

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第三主日礼拝 2020年6月21日

前奏：

招きのことば：詩編 66 編 5-9 節

来て、神の御業を仰げ / 人の子らになされた恐るべき御業を。

神は海を変えて乾いた地とされた。人は大河であったところを歩いて渡った。

それゆえ、我らは神を喜び祝った。

神はとこしえに力強く支配し / 御目は国々を見渡す。背く者は驕ることを許されない。〔セラ
諸国の民よ、我らの神を祝し / 賛美の歌声を響かせよ。

神は我らの魂に命を得させてくださる。我らの足がよろめくのを許されない。

主の眞実はやがて及ぶ。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなた
がお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメ
ン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。過ぐる一週間も、私たちの罪を代わりに担い死んでくださったイエス様の愛の御手によって、私たちを守り導いてくださいました。また今朝共に主の御前にお導きくださいましたことを感謝いたします。

新型コロナウイルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、予定を中止したり、新しい予定に変更したりして、私たちは新しい生活を立てあげようとしています。その中で私たちを励まして、私たちがこれからもさらに互いを赦し、また高め合って歩んでいけますように導いてください。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。今日から始まる新しい一週間も、あなたに遣わされているところで、御名のみ栄のために歩ませてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ 6章 1b-11節

恵みが増すようにと、罪の中にとどまるべきだろうか。決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう。

それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。

わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。

キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

福音書朗読：マタイによる福音書 10章 24-39節

弟子は師にまさるものではなく、僕は主人にまさるものではない。弟子は師のように、僕は主人のようになれば、それで十分である。家の主人がベルゼブルと言われるのなら、その家族の者はもっとひどく言われることだろう。」

「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。

体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘を母に、嫁をしゅうとめに。

こうして、自分の家族の者が敵となる。わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。また、自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。」

讚美歌 : 339 番

- 1 君なるイエスよ、けがれし我を 洗いきよめて めぐみを賜え、
わが日わが時 わがもの皆は 今よりとわに 君のものなり。
- 2 わが手は君の み業をならい、 われの歩みは み跡をふみて、
いそしみ進み、主の御力に 常にたよりて 強いからしめよ。
- 3 われの舌をば すくいの主の 恵みをうたう 器となして、
わが口唇 (くちびる) に よき音ずれを 溢るるばかり 満たしめたまえ。
- 4 黄金、しろがね 知恵も力も 献げまつれば、みなとり用い、
我のこころを 宝庫 (みくら) となして、み旨のままに 治めたまえや。 アーメン

説教 : 「人々を恐れてはならない」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

礼拝で読まれる聖書のみ言葉は、クリスマスの季節からペンテコステまでの半年間にイエス様の歩まれた生涯をたどります。ペンテコステ、つまり聖霊降臨のあと、クリスマスの前まで、

イエス様の教えられたことを覚えます。本日は聖霊降臨後第三主日です。イエス様は、人々を恐れてはならない、と教えておられます。

イエス様はいつもふたつのことを教えられます。ひとつは、救い主であるイエス様を信頼することを教える信仰の教えで、これは神様からの罪の赦しを受けとる受け身の信仰を教えます。もうひとつは、新しい命を生きる愛の教えで、これは救われた私たちが感謝と共に行動する能動的な愛を教えます。

マタイ 10 章 26 節で「人々を恐れてはならない」と教えられるイエス様は、すぐ後の 28 節でも、30 節でも「恐れるな」と言われました。何を恐れないようにイエス様はおっしゃっているのでしょうか。

先週の礼拝で覚えたことを思い起こしてください。イエス様は 12 人の使徒を選び、「天の国は近づいた」とイエス様の福音を宣べ伝えるために、彼らをイスラエルの町々へ送り出しました。そこで弱りはてて打ちひしがれている、飼い主のいない羊のような人々にイエス様の与える癒しと命を取り次ぐためでした。

しかし、使徒たちが出かけたところにいるのは歓迎する人ばかりではありません。使徒たちに耳を貸さず、オオカミのように使徒たちを攻撃し、彼らをとらえて鞭うったり、最高裁判所に引き出したりして、使徒たちを耐えがたい苦しみに会わせます。恐ろしいことが起こります。そこでイエス様は「人々を恐れてはならない」と励ましておられます。使徒たちは自分の十字架を背負ってイエス様に従い通しました。そこに教会が生み出され、次々に世代がめぐって、私たちもイエス様の救いのメッセージを聞くことができたのです。

この聖書のみ言葉から、今朝イエス様は私たちに何をお教えくださるのでしょうか。イエス様の「人々を恐れてはならない」という励ましには力があります。使徒たちは人を恐れることの多い人々でした。イエス様が十字架で死なれた後、使徒たちはたいへん恐れて震えていました。そこにイエス様があらわれてくださって、平安と勇気を与え、励ましてくださいました。

恐れは人を支配します。しかしイエス様は罪を赦し、励ましてくださいます。覚えておられるでしょう。ペテロは恐ろしさのあまり、イエス様を知らないと言った 3 回否定しました。イエス様の仲間だとわかると自分も捕らえられるかもしれないと直観的に恐れしました。しかし後でペテロはとても後悔しました。体を殺すことはできても魂を滅ぼすことのできない人間を恐れたからです。本当に恐れなければならぬのは罪びとを裁いて体も魂も滅ぼす神様だったのです。マタイ 10 章 28 節で「体を殺しても魂を殺すことのできない者どもを恐れすな。むしろ、魂も体

も地獄でほろぼすことのできる方を恐れなさい。」とされている通りです。神様への恐れを、人への恐れが上回ったから、イエス様と自分は無関係だと言ったのです。

イエス様は十字架の苦しみを前にして、ご自分を裏切ったペテロを見つめられ、また復活されたあとにペテロに現れて、その罪を赦し、あたらしい使命を与えてくださいました。ペテロは自分を赦してくださった主イエス様の赦しを、経験者として、謙遜に、そして確信をもって人々に宣べ伝えるようになりました。イエス様が励まされると人は恐れから解き放たれ、生き活きと生きるようになります。人も恐ろしいが、神様を恐れることを優先するようにしたい、とペテロは変えられたのです。神様は罪を裁くとき体も魂も滅ぼすことのできる方です。その神様が私たちを救うために御子イエス・キリストをお遣わしくくださいました。

ペテロは恐れ of 極限状態を通り、神様を恐れ、信頼することを知りました。私たちはどうでしょうか。

例えば、私たちは、イエス様に罪赦されたことを家族や友達など、大切な人に信じてほしいと祈っていますね。でもイエス様を信じる信仰を、人々に伝えようとするとき、心に人への恐れが生じます。ふたつの種類のおそれがありそうです。ひとつの恐れは人の和を乱す恐れです。家庭、職場、学校、友人関係などにいる人々の多くはイエス様のことを知りません。そこにイエス様を伝えると、それまで成り立っていた互いの関係を乱すことになりはしないか、と恐れます。マタイの10章34節でイエス様は、地上に平和をもたらすためではなく、剣をもたらすために来た、と言われました。親子の関係、家族の関係が敵対的になると言われるのです。人との関係寄り神様との関係を優先すると葛藤が生じます。イエス様のことを理解してくれるだろうか、お話してもこれまでと同じように付き合ってくれるだろうか、と恐れます。

第2の恐れは、自信のなさです。自分はクリスチャンと言っても、いつも正しく生きられるだろうか、と恐れます。クリスチャンだということを知られて、そのように見られて緊張しないだろうか、正しく生きることができず失敗したらイエス様の顔に泥をぬることにならないか、などの心配で恐れます。難しいことを質問されたらどうしようか、クリスチャンらしくないところを指摘されたら困らないかな、と恐れます。

日々の時間は神様を恐れなくても過ぎていきます。神様に感謝すること、信頼することは私たちの普段の生活の中に特に意識しなくても自然に組み込まれています。しかし、何か特別なことが起こったとき、私たちは自分の中に神様よりももっと恐れているものがあることに気づきます。

そのようなとき、私たちは普段は自分でも気づいていない、心の深いところにある過去、現在、未来にまつわる恐れが、自分を支配してきたことに気づかされます。過去の何かの失敗に支配されて、いつまでも後悔して自分を責め続けることがあります。恐れています。今の自分が受け入れられず、どうしようもない無力感と寂しさに襲われます。恐れています。これから自分はどうなっていくのだろう、という心配で怯えと妄想に支配されます。恐れています。

人々を恐れている自分に気づいたときこそ、イエス・キリストをあなたのために送ってくださった父なる神様を恐れ、信頼するときです。父なる神様はあなたを守ります。神様以外のものをあなたは恐れることはありません。マタイ 10 章 29 節でイエス様は「二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」と言われました。父なる神様が全てを導いてくださっているのです、恐れなくていいことを力強く教えてくださいます。

父なる神様は、あなたの性質も、あなたのこれまでなさってきたことも、あなた自身の気持ちもすべてご存知の、恐るべきお方です。しかし、あなたが罪の裁きによって地獄の苦しみを受けて滅ぼされることを願っておられません。そして、人が思いつかない、すばらしい大きなみわざをしてくださいました。ご自分の独り子である御子イエス・キリストを人としてお送りくださって、私たちの代わりに十字架で罰してくださいました。イエス様も私たちを愛するゆえに従ってください、十字架にかけられたとき、「父よ、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」と叫ばれました。私たちの心の深いところにある、神様以外のものを恐れる恐れによって、私たちが受けなければならなかった地獄で滅びる苦しみを、このときイエス様がかわりに担ってくださったのでした。イエス様が私たちの代わりに死んでくださったのでした。

神様以外のものを恐れて、心配や絶望、怒りやあきらめに支配されていた私たちは、イエス様によって確かに赦されて、父なる神様を恐れ愛するものとされました。ローマの信徒への手紙 6 章から読んでいただいたように、イエス様の死にあずかる洗礼によってあなたは神様に罪赦されて神の子とされました。聖餐によってあなたが確かに神の子であったことを、いつも新たに確信します。「古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。」

そして、父なる神様はあなたの救いのために死に至るまで従った御子イエス様をよみがえらせてくださり、その右の御座にお迎えになりました。神様はイエス様を復活させた同じ命を、イエス様を信じるあなたにも与えてくださいます。「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。」

新しい命に焦点をあわせて、今週は人を恐れず神様を恐れて、家族や友人にイエス様のことを分かち合う一週としましょう。ペテロのように、私たちは失敗します。信仰も決して強くありません。しかし、そんな私を見捨てず、ご自分の償いのゆえに赦してくださるイエス様を恐れ、信頼して、家族や友人に感謝をもって紹介しましょう。人々を恐れず、キリストにある愛をもって能動的に愛していきましょう。私たちが人の前でイエス様を告白すると、イエス様は天の父の前で、罪を代りに担ってくださった救い主として、私たちを仲間だと言ってくださいます。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思を守ってくださいます。アーメン。

讚美歌：270番 献金 献金感謝の祈り

1. 信仰こそ旅路を みちびく杖、 よわきを強むる かなれや。
 こころ勇ましく 旅を続けゆかん、 この世の危（あやう）き 恐るべしや。
2. わが主を頭（かしら）と仰ぎ見れば、 ちからの泉は 湧きて尽きず。
 めぐみ深き主の 御傷みまつれば、 わずかに残る火 ふたたび燃ゆ。
3. 主イエスの御跡を たどりゆけば、 けわしき山路も 安けきみち。
 いかで迷うべき、 などで疲るべき、 ますぐに御神へ 近づきゆかん。
4. 信仰をぞわが身の 杖と頼まん、 するとき剣も くらぶべしや。
 世々の聖徒らを 強く生かしたる 御霊を我にも 与えたまえ。 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、ああ、みさかえよ。アーメン。

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。アーメン。

後奏